

# 平成29年度 第3回横浜市創造界限形成推進委員会

日時：平成30年3月26日（月）

14時00分～16時00分

会場：YCC ヨコハマ創造都市センター  
3階スペース

## 次 第

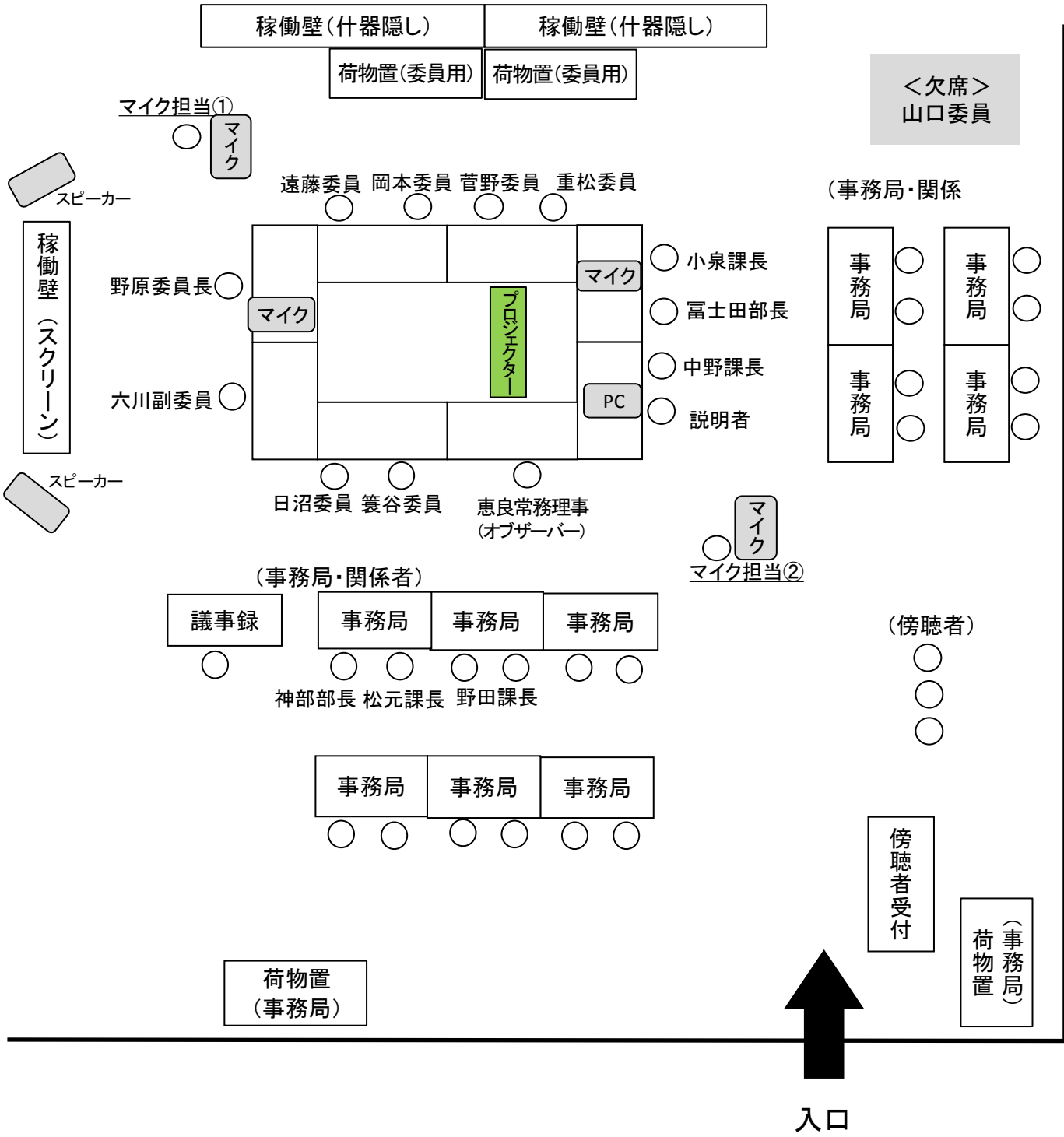
- 1 平成30年度事業計画及び事業評価基準について
- 2 平成30年度文化観光局予算概要について
- 3 文化芸術創造発信拠点形成事業公募要項について
- 4 新たな中期計画の基本的方向について
- 5 その他

※議題1，2は公開、議題3～5は非公開となります。

# 【 席 次 表 】

## 平成29年度 第3回横浜市創造界限形成推進委員会

日時:平成30年3月26日(月)14時~16時  
会場:YCC ヨコハマ創造都市センター 3階



横浜市創造界隈形成推進委員会委員名簿(9名)

氏名	所属団体(役職名)		分野
◎野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
○六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
菅野 幸子	アートプランナー・リサーチャー		アート／国際交流
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	准教授	アートマネジメント
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流／舞台芸術

◎…委員長

○…副委員長

横浜市創造界限形成推進委員会 分科会委員名簿

旧第一銀行横浜支店事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★若林 朋子	プロジェクトコーディネーター/プランナー		企業支援と芸術

日本郵船横浜海岸通倉庫事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★恵良 隆二	横浜市立大学	非常勤講師	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

旧関東財務局横浜財務事務所事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流/舞台芸術
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
★恵志 美奈子	世田谷パブリックシアター	劇場部	公立文化施設

象の鼻テラス事業評価分科会

◎ 菅野 幸子	アートプランナー・リサーチャー		アート/国際交流
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	准教授	アートマネジメント

初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点事業評価分科会

◎ 日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	准教授	アートマネジメント
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

文化芸術創造発信拠点事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
菅野 幸子	アートプランナー・リサーチャー		アート/国際交流
★恵良 隆二	横浜市立大学	非常勤講師	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

◎…議長

★事業評価及び運営団体選考分科会に参加する委員以外の有識者

拠点名	◆旧第一銀行横浜支店 (YCCヨコハマ創造都市センター) 【運営主体】NPO法人YCC	◆旧関東財務局横浜財務事務所 (THE BAYS) 【運営主体】(株)横浜DeNAベイスターズ	◆旧老松会館 (急な坂スタジオ) 【運営主体】NPO法人アートプラットフォーム	◆象の鼻テラス 【運営主体】(株)ワコールアートセンター	◆初賀・日ノ出町文化芸術振興拠点 【運営主体】NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター
日時	平成30年2月26日(月) 14時00分～16時00分	平成30年2月21日(水) 13時30分～15時00分	平成30年2月8日(木) 10時00分～11時30分	平成30年2月21日(水) 9時00分～10時30分	平成30年2月21日(水) 10時30分～12時00分
出席者 ※敬称略	(委員) 六川議長、養谷委員、若林委員 (運営主体) 長田、武井	(委員) 野原議長、重松委員、田辺委員 (運営主体) 木村、林、青木、大沢	(委員) 山口議長、岡本委員 (運営主体) 加藤	(委員) 菅野議長、遠藤委員、日沼委員 (運営主体) 岡田、守屋、石川	(委員) 日沼議長、遠藤委員、田辺委員 (運営主体) 山野、仲原、本田
事務局	中野創造都市推進課担当課長 他	河本創造まちづくり担当課長 他	中野創造都市推進課担当課長 他	河本創造まちづくり担当課長 他	中野創造都市推進課担当課長 他
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>多彩な自主プログラムを実施し、知名度の向上、ブランディング、来館者増加につなげる</li> <li>常設事業間の連携やコワーキング会員間の連携、地域連携など、様々なコラボレーションを促進</li> <li>安定的な事業運営と、国内外の優れた芸術の鑑賞機会提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツやヘルスケアをテーマとしたクリエイティブ産業の創出</li> <li>スポーツ×クリエイティブを日常的体験できるライフスタイルの創出</li> <li>日本大通り地区やまちのにぎわい創出</li> </ul> <p>(平成30年度の事業方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強固な顧客基盤の創出</li> <li>フロアー(事業)間の連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての利用者にとって『快適・安全で使いやすい、借りやすい稽古場運営』</li> <li>『横浜発』を、広く国内外に輩出する『創造・創作活動のためのプラットフォーム』</li> <li>次代を担う若いアーティストたちにとって『使いたいと思う稽古場』</li> <li>市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる『体験型プログラム』</li> </ul>	<p>(5年間のコンセプト)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>創造都市の持続的な発展を目指し、『民間連携』『海外展開』『人材育成』を進める。</li> </ul> <p>(平成30年度の運営方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10周年事業の具体化</li> <li>11年目以降の推進に向けた取組</li> <li>市民参加の多様性と関わり方の深度の拡大</li> <li>取組の情報化と発信</li> <li>安全管理の強化と設備メンテナンスの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術の力で新しい価値観を生み出し、地区の活性化を図る</li> <li>NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営</li> <li>産業振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開</li> <li>大学、教育機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信</li> </ul>
平成30年度事業計画 主な実施事業	<p>①常設機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気軽に立ち寄り作品鑑賞もできる「カフェオムニバス」: サービスの向上</li> <li>コワーキングスペース「キャンパス」: 会員間のコラボレーション促進</li> <li>市民参画でものづくりができる「ファブラボ・β・馬車道」</li> <li>活動発表等「レンタルスペース」</li> </ul> <p>②自主プログラム(人々のクリエイティビティを誘発する展示プログラムやワークショップ等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>YCC Temporary: 大型インスタレーションやパフォーマンス等を実施</li> <li>YCC Gallery: ギャラリースペースに若手アーティスト等による平面作品等を展示</li> <li>RED ROOM: 建物先端の特徴を生かした空間作品及びアートラウンジ</li> <li>YCC キッズ・ワークショップ</li> <li>アーティストトーク</li> <li>2019年の旧第一銀行建設90周年に向け、特別プログラムの検討・企画</li> </ul> <p>③広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>印刷媒体のほか、SNS活用などにより知名度向上に努める</li> </ul>	<p>①CREATIVE SPORTS LAB (CSL)</p> <p>(1)実証実験を通じたビジネスマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慶応大学SDMIによるプロジェクト立ち上げ、展開</li> <li>その他新規プロジェクトの立ち上げ</li> </ul> <p>(2)参加型オープンイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>超野球(新たなプロトタイプの制作・発表)</li> <li>ゆるスポーツ(プロトタイプの制作・発表)</li> <li>トークイベント、コミュニティナイトの開催</li> <li>ASCとの連携による朝プログラム</li> </ul> <p>(3)BAYSTARS Sports Accelerator(ベンチャー企業との共創事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択企業との連携によるプログラム開始</li> </ul> <p>②ACTIVE STYLE CLUB (ASC)</p> <p>(1)フィットネスプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共空間活用プログラム(パークヨガ他)</li> <li>区民向けプログラム(対象区の拡大検討)</li> <li>CSLとの連携による朝プログラム</li> <li>YDBが持つアセットを活用した企画、プロモーション</li> </ul> <p>(2)キッズ向けプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キッズランニングプログラム</li> <li>キッズチアプログラム</li> </ul> <p>③カフェ・ショップ</p> <p>(1)カフェ(&amp;9)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CSL、ASCイベントとの連携(飲食提供)</li> <li>横浜スタジアムのイベントとの連携強化</li> <li>展示スペースを活用したCSLアウトプット展示、創造界隈拠点や地域の情報発信</li> </ul> <p>(2)ショップ(+B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CSL会員や横浜のクリエイターとの連携による商品開発</li> <li>ASC会員が使えるグッズ展開を強化</li> </ul>	<p>①スタジオ等運営業務</p> <p>②カフェ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「食」でのアーティストへのサポート</li> <li>稽古以外での利用者の増、市民の認知率アップを目指す</li> </ul> <p>③レジデント・サポートアーティスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アーティストの安定した創作環境のため、恒常的な制作業務・マネジメントや、稽古場の優先使用などの支援を実施</li> <li>30年度は指名・公募により、一部アーティストのメンバーチェンジを予定</li> </ul> <p>④アーティスト支援・育成プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手アーティストの公演・発表や作品制作を支援するサポート企画を実施</li> <li>坂あがり相談室plus</li> <li>ダンスダンギ</li> </ul> <p>⑤体験型プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古典芸能を用いた子供向けワークショップを実施</li> <li>様々な形で舞台芸術に触れることができるショーケースを実施し、稽古以外の来訪者を開拓する</li> </ul>	<p>①運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無料休憩スペースの運営</li> <li>新たなガイドツアーの開催など、観光インフォメーションの実施</li> </ul> <p>②自主企画事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Creative Repair Project:</b> 象の鼻テラスやパークの課題をクリエイティブに解決するプロジェクト。10周年事業として企画</li> <li>ETB(エレファント・トラベル・ビューロー): 市民ボランティアの力などを活用し、新しい横浜アートツーリズムの発信と体験の場づくりを進めるプロジェクト</li> <li>ZOU-SUN-MARCHE: 毎週日曜日に地元飲食店やアーティストと連携した体験型のマルシェ</li> <li>Atelier ZOU-NO-HANA: 子どもたちの創造性を育むプログラムの実施</li> <li>ソウノハナ・バレエ・プロジェクト 横浜発の市民が支える地元バレエ団の立ち上げを目指し、横浜出身のダンサー安藤洋子によるワークショップの実施</li> <li>PORT JOURNEYS: 世界の創造都市との交流を図るプロジェクト。アーティストの相互派遣などの都市間交流</li> </ul> <p>③協力事業/実行委員会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートイルミネーション横浜</li> <li>スローレーベル/ヨコハマ・パトリエンナーレ</li> </ul> <p>④広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の高速化</li> <li>バイリンガル化の推進</li> </ul>	<p>①アーティスト・イン・レジデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3か月単位の短期レジデンスの実施</li> <li>共用施設の運用等、アーティストの活動環境の整備・改善</li> <li>レジデンスアーティストが一同に会するミーティングを月に1回程度開催し、アーティスト間の交流と情報交換を図る</li> <li>made in Koganecho: レジデンスアーティストの作品・グッズ等の販売支援と共に、作品を「黄金町産」としてブランディング</li> <li>レジデントアーティスト向け講座</li> </ul> <p>②黄金町バザール2018</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推薦・公募により選考された国内外のアーティスト、黄金町レジデンスアーティストによるAIR事業の取組発表</li> <li>NPO発足10周年を記念したプログラムを企画</li> </ul> <p>③国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外拠点との交流(アーティストの招聘・派遣)</li> </ul> <p>④地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>のきさきアートフェア</li> <li>高架下活用検討 京浜急行、高架下事業者と連携したにぎわい形成の検討</li> </ul>

■ 平成30年度事業評価軸(案)

拠点名	◆旧第一銀行横浜支店 (YCC ヨコハマ創造都市センター) 【運営主体】NPO法人YCC	◆旧関東財務局横浜財務事務所 (THE BAYS) 【運営主体】(株)横浜DeNAベイスターズ	◆旧老松会館 (急な坂スタジオ) 【運営主体】NPO法人アートプラットフォーム	◆象の鼻テラス 【運営主体】(株)ワコールアートセンター	◆初寅・日ノ出町文化芸術拠点振興拠点 【運営主体】NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター
平成30年度事業評価基準	<p>＜＜運営評価＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の活動実績</li> <li>入場者数、利用団体、稼働率</li> <li>どのような広報活動を行い、反響はどの程度あるか</li> <li>どのような体制で運営しているか               <ul style="list-style-type: none"> <li>-スタッフ数</li> <li>-勤務体制</li> <li>-スタッフのスキルアップ・モチベーション向上への取組等</li> </ul> </li> <li>活動の蓄積を図り今後につなげているか               <ul style="list-style-type: none"> <li>-活動の記録状況</li> <li>-数値データの把握/活用状況</li> <li>-アーティスト・クリエイター等とのネットワーク構築状況</li> </ul> </li> </ul> <p>＜＜経営評価＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総支出をどのようにまかなっているか               <ul style="list-style-type: none"> <li>-市補助金やその他の収入内訳・比率</li> </ul> </li> <li>経営の自立化のためにどのような努力を行っているか</li> </ul>	<p>＜＜運営評価＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の運営状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>-賃料を滞滞なく支払っているか</li> <li>-文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか</li> <li>-コミュニティスペースがクリエイター・企業等の交流の場として十分利用されているか</li> <li>-3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか</li> <li>-事業計画を基本に、事業目的に合った運営が行われているか</li> </ul> </li> <li>広報活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>-施設及び各事業の効果的な広報活動・情報発信が行われているか</li> <li>-創造都市横浜のPRにつながる工夫がなされているか</li> </ul> </li> <li>施設の維持管理               <ul style="list-style-type: none"> <li>-施設を法令遵守して維持管理しているか(特に文化財として)</li> <li>-施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか</li> <li>-利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか</li> <li>-安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか</li> </ul> </li> </ul>	<p>＜＜運営評価＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設における活動実績はどうか</li> <li>利用団体数・稼働率・ワークショップ参加者数</li> <li>どのような広報活動を行っているか</li> <li>反響はどの程度あるか(市民・メディア)</li> <li>どのような体制で運営しているか</li> <li>活動の蓄積を図り今後に繋げているか</li> </ul> <p>＜＜経営評価＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間総事業費について(収入・支出)</li> <li>年間の維持管理上、どのような努力を行っているか</li> </ul>	<p>＜＜運営評価＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無料休憩スペース/観光インフォメーション運営               <ul style="list-style-type: none"> <li>-無料休憩スペースを年中無休で運営</li> <li>-観光インフォメーション実施</li> <li>-日常的にアート・映像作品を展示</li> <li>-利用者の利便性向上への取組</li> <li>-誰でも入りやすい空間づくり</li> <li>-営業時間の工夫(休祝前日の時間延長)</li> </ul> </li> <li>運営体制               <ul style="list-style-type: none"> <li>-スタッフの配置状況、勤務体制</li> <li>-緊急時の体制</li> <li>-スタッフのスキルアップ、モチベーションアップへの取組</li> </ul> </li> <li>施設の維持管理               <ul style="list-style-type: none"> <li>-施設の維持管理状況</li> <li>-施設の小規模修繕・改善状況</li> <li>-安全対策、安全管理体制</li> </ul> </li> </ul>	<p>＜＜運営評価＞＞</p> <p>＜＜経営評価＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体事業収支</li> <li>施設の維持管理状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>-管理施設数</li> <li>-利用状況</li> <li>-改修状況</li> <li>-安全対策</li> </ul> </li> <li>事業収入               <ul style="list-style-type: none"> <li>-バザールチケット収入</li> <li>-黄金町芸術学校受講料</li> <li>-スタジオ利用料</li> <li>-家賃収入</li> <li>-視察受入</li> </ul> </li> </ul>
	<p>＜＜創造性評価＞＞</p> <p>＜＜政策達成評価＞＞</p> <p>■活動拠点・ハブ機能:誰もが気軽に集い、新しい可能性に出会える場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの市民が創造都市横浜に触れ、創造都市横浜への理解・共感を高めることに寄与しているか</li> </ul> <p>■地域プログラム:地域との連携を図り、コラボレーションしている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域との協働を推進し、まちの活性化に貢献しているか               <ul style="list-style-type: none"> <li>-アート・デザイン</li> <li>-クリエイティブ×ビジネス</li> <li>-地域連携プログラム</li> </ul> </li> </ul> <p>■市民プログラム:人々のクリエイティビティを誘発する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未来に向けた新たなアイデアを発信し、市民のクリエイティビティを高めているか               <ul style="list-style-type: none"> <li>-美術展示</li> <li>-イベント・トーク</li> <li>-ものづくりワークショップ</li> </ul> </li> </ul>	<p>＜＜創造性評価＞＞</p> <p>＜＜政策達成評価＞＞</p> <p>■関内外地区における創造産業の集積をさらに推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ×クリエイティブというコンセプトを体现する活動、事業等を総合的に実践できたか</li> <li>新たなイノベーション・創造産業の創出・集積に向けた活動が進んでいるか</li> <li>創造界隈のクリエイター、企業、大学、市民、行政との交流・連携が促進されているか</li> </ul> <p>■本施設の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本大通り地区の賑わい創出に貢献しているか</li> <li>日本大通り地区の事業に参加・協力しているか</li> <li>スポーツ×クリエイティブという視点から、創造界隈の形成や関内外の活性化にも活動を広げているか</li> </ul>	<p>＜＜創造性評価＞＞</p> <p>＜＜政策達成評価＞＞</p> <p>■『横浜発』を、広く国内外に輩出する『創造・創作活動のためのプラットフォーム』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「横浜発」を意識した、発信力のある創造的活動を展開しているか</li> </ul> <p>■次代を担う若いアーティストたちにとって『使いたいと思う稽古場』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな可能性を持つ人材を発掘、育成しているか</li> </ul> <p>■市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる『体験型プログラム』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの創造性を育む創造的プログラムを展開しているか</li> <li>地域・市民に開かれた場所とするための取組を行っているか</li> </ul>	<p>＜＜創造性評価＞＞</p> <p>＜＜政策達成評価＞＞</p> <p>■創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する</p> <p>【文化芸術事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業</li> <li>まちづくり、賑わいづくりに資する事業</li> <li>市民にとってより身近で開かれた事業</li> </ul> <p>【協力事業/実行委員会事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市主催事業、創造界隈拠点と連携した事業等への開催場所提供</li> </ul> <p>【カフェ運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カフェからの積極的な文化発信</li> </ul> <p>■広報活動により施設及び事業の効果的な周知を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設及び事業の広報活動、情報発信</li> <li>創造都市横浜のPRにつながる広報活動、情報発信</li> <li>出版物、映像資料等の制作、発行</li> <li>海外を意識した情報発信(バイリンガル対応)</li> </ul>	<p>＜＜創造性評価＞＞</p> <p>＜＜政策達成評価＞＞</p> <p>■文化芸術の力で新しい価値観を生み出し、地区の活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい価値観を生み出す事業</li> <li>国際交流ネットワークの構築を図る事業</li> <li>アーティスト支援</li> </ul> <p>■地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や企業等との連携をはかる事業</li> <li>京浜急行との連携</li> </ul> <p>■産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携を図る事業</li> </ul> <p>■大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報・情報発信</li> </ul>



平成30年度

# 予算概要

文化観光局

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA





# 目 次

	ページ
I 平成30年度文化観光局予算案について	3
○予算額の概要	
○予算編成の考え方	
◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆	4
II 平成30年度文化観光局主要事業	5
1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化	5
(1) シティプロモーション事業	
(2) 調査分析事業	
2 未来を担う次世代育成の推進と多様性に寛容な社会の実現 ～クリエイティブ・チルドレン／クリエイティブ・インクルージョン～	6
(1) 芸術文化教育プログラム推進事業	
(2) クラシック・ヨコハマ推進事業	
(3) ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン推進事業	
(4) 映像文化都市次世代育成事業	
(5) M I C E次世代育成事業	
(6) アーティスト・クリエイター向け助成事業	
(7) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業	
(8) ユニバーサルツーリズムの推進	
◆トピックス② クリエイティブ・チルドレンとクリエイティブ・ インクルージョンの主な取組◆	9
3 市民の文化芸術活動の支援	10
(1) 地域文化サポート事業	
(2) 芸術文化支援事業	
(3) フランス映画祭支援事業	
(4) 関内ホール改修事業	
(5) 横浜美術館大規模改修事業	
(6) 文化施設整備事業	
(7) 文化施設運営事業	
◆トピックス③ 市民活動への支援 -ヨコハマアートサイト2017-◆	12
4 アジアをリードする文化芸術創造都市の実現	13
(1) 横浜芸術アクション事業	
(2) 日中韓都市間文化交流事業	
(3) スマートイルミネーション事業	

(4) 創造的ビジネス・コーディネート事業	
(5) アーツコミッション事業	
(6) 創造界限形成事業	
◆トピックス④ ヨコハマトリエンナーレ2017◆	17
<b>5 集客増に向けた観光施策の充実、MICE誘致・開催支援</b>	<b>18</b>
(1) ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とする海外誘客プロモーション事業	
(2) 海外誘客事業	
(3) 国内誘客事業	
(4) MICE誘致・開催支援事業	
(5) 20街区MICE施設整備事業	
◆トピックス⑤ 国際的なMICE拠点都市・横浜◆	21
◆トピックス⑥ 多様な来訪者に対応できる受入環境整備◆	21
◆トピックス⑦ ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした取組の強化◆	22
III 平成30年度文化観光局予算案総括表	23
IV 予算科目別内訳	25
1 文化観光総務費	25
2 文化芸術創造都市推進費	26
3 文化プログラム推進費	30
4 観光MICE振興費	31

# I 平成 30 年度 文化観光局予算案について

## 予算額の概要

30年度の文化観光局の一般会計予算額は、105億1,405万円、対前年度31億9,428万円の増43.6%の増となっています。

主な増額理由は、関内ホール改修事業及び文化施設整備事業の増によるものです。

区 分	30年度予算額	29年度予算額	増 減
一般会計	105億1,405万円	73億1,977万円	31億9,428万円 (43.6%)

(内訳は23ページの文化観光局予算案総括表を御覧ください。)

## 予算編成の考え方

### 1. さらなるステップアップに向けて

文化観光局は、「文化のかおる活力ある都市横浜、人が集い交流する賑わいのある都市横浜」の実現に向けて、データに基づいたPDCAサイクルをしっかりとまわし、事業の相乗効果を発揮しながら様々な取組を展開しています。

29年度は、現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2017」、「ヨコハマ・パトリエンナーレ2017」の開催、「第50回アジア開発銀行年次総会」の開催支援や新たなMICE施設の建築、本体工事の着手と誘致活動の開始など、中期4か年計画の目標達成に向け、文化芸術創造都市や観光・MICEの各取組を進めました。また、観光集客実人員は3,614万人、観光消費額<sup>1</sup>は過去最高の3,195億円となりました。

30年度は、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>、東京2020オリンピック・パラリンピックを間近に控え、新たな取組をスタートさせる年度でもあります。文化芸術のもつ創造性を生かし、都市の魅力や活力につなげる“クリエイティブ・チルドレン”、“クリエイティブ・インクルージョン”という2本の方針（ポリシー）を掲げ、文化芸術創造都市施策、観光・MICE施策を推進します。また、横浜ならではの文化プログラムの展開、国内外からの誘客やMICE誘致を通じ、賑わいと活力のあふれる「選ばれる都市 横浜」の実現に向けて、局一丸となって取り組みます。

<sup>1</sup> 29年4月28日発表の「28年（1～12月）観光集客実人員及び観光消費額」

## 2. 施策を推進する5つの柱

横浜が市民の皆様にとって誇れるまち、国内・海外からも「選ばれる都市」として、持続的に発展し、都市の活性化を図るために、市民の皆様をはじめ、地域、事業者、団体、NPOなど様々な皆様と連携し、施策を展開します。そのため、5つの柱を立てて施策を推進します。

### 1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

### 2 未来を担う次世代育成の推進と多様性に寛容な社会の実現

～クリエイティブ・チルドレン/クリエイティブ・インクルージョン～

### 3 市民の文化芸術活動の支援

### 4 アジアをリードする文化芸術創造都市の実現

### 5 集客増に向けた観光施策の充実、MICE誘致・開催支援

#### ◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆

「横浜市中期4か年計画 2014～2017」では、都市間競争が激化する中で、人や企業から選ばれる都市となるよう、文化芸術創造都市施策及び、街の魅力や賑わいづくりにつながる観光誘客の促進など、観光・MICEの振興を図っています。各指標の目標値と取組状況（28年度）は次のとおりです。

指 標	策定時	28 年度	目標値(29 年度末)
<b>施策23 観光・MICEの推進</b>			
国際会議開催件数 (UIA※1基準)	51件(25年)	42件(28年)	75件/年
外国人延べ宿泊者数	44万人(25年)	72万人(28年)	60万人/年
観光消費額	2,334億円(25年)	3,195億円(28年)	2,475億円
<b>施策24 文化芸術創造都市による魅力・活力の創出</b>			
横浜美術館及び横浜みなとみらい ホールの首都圏からの来訪率※2(横 浜市を除く県内及び東京都、埼玉県、千葉県 の平均値)	横浜美術館 14.9% (25年度) MMホール 15.6% (25年度)	横浜美術館 13.6% (28年度) MMホール 20.4% (28年度)	横浜美術館 17% MMホール 17%
芸術文化教育プログラム推進事業 学校プログラム実施回数	205回(25年度)	324回(28年度)	280回
創造界限拠点(4拠点)※3の市内 認知率	40.1%(25年度)	45.5%(28年度)	50%

※1 UIA: Union of International Associations(国際団体連合) 28年の件数は29年12月現在

※2 横浜市調査で「これまでに施設を訪れたことがある」と回答した方の割合

※3 創造界限拠点(4拠点): YCCヨコハマ創造都市センター、Bank ART Studio NYK、象の鼻テラス、黄金スタジオ・日ノ出スタジオ

## Ⅱ 平成 30 年度 文化観光局 主要事業

1

### 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見据え、横浜のブランド力向上や集客・賑わいづくりにつなげていくため、基礎情報の収集・分析を踏まえ、文化芸術創造都市、観光・M I C E を中心に横浜の魅力を総合的に発信するシティプロモーションを戦略的・効果的に展開します。

#### (1) シティプロモーション事業

8,582 万円（前年度：8,782 万円）

p. 25

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的にプロモーションすべきイベント・施設を選定したうえで、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。

30 年度は、アジアに加え英国やオーストラリア等をターゲットエリアに、海外への訴求をより強化します。テレビや Web メディア、SNS によるプロモーションを展開することで、都市の魅力の認知やブランド力の向上につなげます。

さらに、プロモーションについてのノウハウの蓄積・共有化を進めるとともに、庁内での各種研修の実施や各部署からの事業プロモーションに対する相談対応を行うことで、市全体のプロモーション力アップと一貫性のあるプロモーションを進めます。



【公式Instagramアカウント  
@findyouryokohama】



【CNN でのテレビ CM の放映】

#### (2) 調査分析事業

1,208 万円（前年度：1,421 万円）

p. 25

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等を把握することにより、施策立案の基礎情報として活用します。あわせて、ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックという絶好の機会をとらえた、賑わい形成、経済の活性化、プロモーションの戦略的・効果的な実施につなげるため、国内外での横浜の魅力に関する調査を実施します。

## 2

# 未来を担う次世代育成の推進と多様性に寛容な社会の実現 ～クリエイティブ・チルドレン／クリエイティブ・インクルージョン～

子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域において、文化芸術を通じた国際交流などに親しむ機会の充実や才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、ライフステージに応じた次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）を幅広く展開します。

また、横浜市の文化芸術の創造性を生かしたまちづくりを踏まえ、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを超えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方（クリエイティブ・インクルージョン）をもって、事業を実施します。

### （1）芸術文化教育プログラム推進事業

3,494万円（前年度:3,494万円）

p. 27

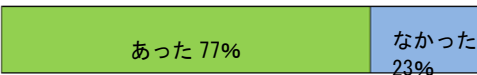
芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを30年度は、261回（29年度予算261回）実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、教師とアーティストのコーディネートを担当することで効果的にプログラムを提供します。プログラムの質を高めるため、コーディネーターが相互にノウハウを交換しあう会議や教師のためのワークショップを開催し、本事業を支える人材を育成します。また、29年度に引き続き、世界水準の舞台で公演を鑑賞する機会を提供します。

#### 28年度実施アンケートから

児童・生徒向けアンケート

■自分から楽しんだり、発見したことはありましたか？



児童・生徒向けアンケート

■今回のような授業をまた受けてほしいですか？



教員向けアンケート

■ねらいに照らして、満足できるものでしたか？



【斎藤分小学校(神奈川区)/音楽】



【南瀬谷小学校(瀬谷区)/ダンス 撮影: bozzo】



【小机小学校(港北区)/伝統芸能・落語】



## (2) クラシック・ヨコハマ推進事業

1,000 万円（前年度：1,000 万円）

p. 27

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供するとともに、市民の皆様身近な場所でクラシック音楽を楽しんでいただくことを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」を核に、コンサートを開催します。コンクールでは、市民の皆様を選定員になっていただき、聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。

コンサートは、横浜市民賞受賞者をはじめとしたコンクール出場経験者が出演するコンサートを中心に、約3か月間、市内各地のミュージアムやサロン、福祉施設等の身近な場所で開催します。

【第71回全日本学生音楽コンクール  
全国大会 in 横浜（毎日新聞社提供）】



## (3) ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン推進事業

拡充

2,000 万円（前年度：1,000 万円）

p. 28

次世代を担う演奏家の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、創設者の大友直人氏、アラン・ギルバート氏ら、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、横浜みなとみらいホールで合宿セミナーを実施します。成果を発表する場として、室内楽やオーケストラ等のコンサートを開催します。

30年度は、プログラムの追加や広報の充実を通して事業を一層推進します。



【MMC J 受講生による室内楽コンサート  
撮影：三浦興一】

## (4) 映像文化都市次世代育成事業（映像文化都市づくり推進事業の一部）

1,935 万円（前年度：1,935 万円）

p. 27

横浜市が誘致した東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用して、主に幼児から小学生までを対象とした映像ワークショップを実施するほか、東京藝術大学教授が講師を務める、小中高生を対象とした映像鑑賞教育を実施します。

また、民間企業と連携して「ハンドメイド・アニメーション・グランプリ横浜賞」を設け、若手映像クリエーターを支援します。



【クリスマス・アニメーション・  
ワークショップ（青葉区内）】

### (5) MICE次世代育成事業 (MICE誘致・開催支援事業の一部)

400万円 (前年度: 400万円) p. 32

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒を対象とした講演やワークショップなどの講座を開催します。研究者との交流や、普段体験できない特別な実習などを通し、次世代を担う児童・生徒が最先端の技術や情報に接し、また、将来の進路について考えるきっかけを提供します。



【次世代育成事業開催の様子：  
ジュニアセミナーin横浜ー未来の外科医は君だ！ー】

### (6) アーティスト・クリエイター向け助成事業

拡充

(アーツコミッション事業の一部)

1,450万円 (前年度: 1,410万円) p. 26

次世代を担う若手アーティスト・クリエイターに対して、キャリアアップ活動の支援や、スタジオ、アトリエ、事務所等開設の支援を行います。また、共生社会の実現を目指した創造的な活動の支援を行います。

30年度は、事務所等の開設支援を拡充するなど、若手アーティストの育成を一層推進します。

### (7) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業

1,000万円 (前年度: 6,000万円) p. 26

障害のある方をはじめとする市民の皆様と、アーティストなどの多様な分野のプロフェッショナルとの協働によるアートプロジェクト『ヨコハマ・パラトリエンナーレ』を開催し、誰もが居場所と役割を実感できる社会の実現を目指します。

30年度は、健康福祉局と引き続き連携し※、映像や制作物を活用したワークショップなどを行いながら前回展の成果やヨコハマ・パラトリエンナーレの理念を広く市民の皆様へPRするとともに、32年度に予定している次回展に向けた企画の検討や会場選定などの準備作業を進めます。※…健康福祉局で300万円を別途計上

### (8) ユニバーサルツーリズムの推進 (国内誘客事業の一部)

拡充

816万円 (前年度: 500万円) p. 31

年齢や障害の有無等に関わらず、すべての方々が横浜観光を楽しめるよう、ユニバーサルツーリズムを推進します。

30年度は、新横浜エリアの観光施設等のバリアフリー対応状況の調査を行うとともに、市内観光関連事業者を対象とした研修を開催します。



【車いすを使った調査】



## ◆トピックス② クリエイティブ・チルドレンと クリエイティブ・インクルージョンの主な取組 ◆

### ◆スマートイルミネーション・アワード 2017

若手アーティストや学生らに作品発表の機会と場を提供するとともに、LEDや有機ELなど、環境共生型の照明技術の新たな活用策などを発見、創造する機会として、「スマートイルミネーション・アワード」を25年度から開催しています。

30年度も引き続き、「スマートイルミネーション・アワード」を実施し、未来の夜景を創造するアーティストの発掘、育成に取り組みます。

(参考) スマートイルミネーション・アワード 2017

募集期間：29年6月1日～7月31日

展示期間：29年11月1日～11月5日

展示会場：象の鼻パーク



【スマートイルミネーション・アワード 2017  
オーディエンス賞受賞作品「光のやじるべえ」  
撮影：Hajime Kato】

### ◆ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017

「ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017」では、創作と協働のプロセスをオープンに見せていくことで共生社会の実現に向けた機運醸成を図るため、全体を3部構成としました。

5月から9月にかけての第1部〈創作〉では、市内の学校や福祉施設などで、インスタレーション作品の制作やパフォーマンスアーツの公開ワークショップを実施しました。

10月には第2部として「不思議の森の大夜会」をテーマとしたフェスティバルを開催し、第1部で制作を進めてきたパフォーマンスやアート作品の発表を行いました。

また、第3部〈記録展示〉では、11月から30年1月まで港北区の横浜ラポールなど市内4か所を巡回し、第1部や第2部の映像、制作物、衣装などを展示することでパラトリエンナーレの取組を広くPRしました。

(参考) ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017

開催期間：29年5月27日～30年1月27日

会場：象の鼻パーク、象の鼻テラスほか

総合ディレクター：栗栖 良依



【ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017  
第2部〈発表〉「不思議の森の大夜会」  
撮影：加藤甫】

文化的に豊かな市民生活の実現に向け、市民の皆様やNPO等が主体となって行う文化芸術活動を支援し、様々な文化芸術活動を鑑賞、創作、体験、発表できる機会の充実を図り、市内全域で市民の皆様が活動しやすい環境づくりを進めます。

また、文化芸術活動の拠点施設を整備・運営し、文化芸術を身近に親しむ機会の提供や様々な情報・魅力を発信します。

### (1) 地域文化サポート事業

3,000万円（前年度：3,000万円） p. 27

地域課題の解決にアプローチするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける取組や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくりなどの分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌（季刊「ヨコハマアートサイト」）の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。



【本牧アートプロジェクト「こどもディスコ」撮影：森日出夫】

### (2) 芸術文化支援事業

3,040万円（前年度：3,040万円） p. 28

市民の皆様が様々な文化芸術を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市内に拠点のある文化芸術団体が行う、横浜の文化振興の基盤を担う活動を支援します。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団のコンサートや、市庁舎や市内各地で演奏会を開いている横浜市民広間演奏会、市内最大の美術公募展などを支援します。

### (3) フランス映画祭支援事業

新規

3,000万円（前年度：－） p. 28

日仏交流160周年を機に、フランス映画祭が横浜で開催されます。街の賑わいづくり及び横浜市とフランスの友好関係を強固なものとするを目的に、「横浜フランス月間」と連携しながら、この映画祭の開催を支援します。最新作上映のほか、市民交流・次世代育成事業を実施します。

会期：30年6月21日から24日（4日間）

会場：横浜みなとみらいホールほか

#### (4) 関内ホール改修事業

拡充

26億27万円（前年度：2億5,811万円） p. 28

関内ホールは、しゅん工後30年が経過し、老朽化が進んでいることから、電気、空調、衛生設備等を更新することにより、長寿命化を図るとともに、ホールの天井の耐震化や、トイレの洋式化も併せて実施します。

リニューアルオープンは、30年9月末を予定しています。



【関内ホール】

#### (5) 横浜美術館大規模改修事業

新規

7,000万円（前年度：－） p. 28

横浜美術館は、しゅん工後約30年が経過し、美術作品を展示、保存するうえで最も重要である空調設備をはじめ、電気や衛生設備等を更新することにより、長寿命化を図ります。

また、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応や、収蔵庫の拡張等を行います。

30年度は、改修工事に向けた基本設計を行います。



【横浜美術館】

#### (6) 文化施設整備事業

拡充

7億5,720万円（前年度：4,200万円） p. 29

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備します。

- ・ 瀬谷区：保留床購入費 1億4,800万円  
（瀬谷駅南口第1地区第一種市街地再開発事業の中での整備）
- ・ 港北区：内装実施設計費 5,120万円  
（新綱島駅前地区第一種市街地再開発事業の中での整備）
- ・ 都筑区：土地有償所管換費 5億5,000万円、活用事業者公募関係費用 800万円  
（区民文化センター整備を条件とする土地活用事業の中での整備）

## (7) 文化施設運営事業

29 億 6,469 万円（前年度：31 億 8,273 万円）

p. 28

横浜美術館や横浜みなとみらいホール等の専門文化施設の運営を通じて、国内外から注目されるような質の高い展覧会やコンサート等を実施し、横浜の魅力を発信するとともに、大倉山記念館や長浜ホール等の文化施設を運営することで、市民の皆様が文化芸術に親しむ機会を提供します。

また、施設を安全に利用できるよう、各施設の設備機器の修繕等を行うとともに、横浜みなとみらいホール大規模改修事業に向けた基本設計と、鶴見及び栄区民文化センターのホールの天井の耐震化に向けた実施設計を行います。

### ◆トピックス③ 市民活動への支援 -ヨコハマアートサイト 2017- ◆

地域文化サポート事業（ヨコハマアートサイト）では、アートで地域を支える文化芸術活動を採択し、支援しています。

「みんなでワークショップ」NPO法人ぷかぶか

～障害のある人と一緒に生きていきたい、という思いをベースに活動～

障害のある人が参加する演劇ワークショップを重ね、緑区民文化センターと連携した「表現の市場」で発表しています。28年度からオーケストラに所属するプロのチェロ奏者とのコラボレーションも実現し、障害のある人とつくる「新しい文化」を発信しています。



【セロ弾きのゴーシュ・ぷかぶか版 平成 28 年度実施】



横浜らしい特色ある芸術フェスティバルの継続的な開催や、文化芸術を通じた国際交流の展開により、横浜のプレゼンスを向上させ、交流人口の増加等につなげます。

また、歴史的建造物や公共空間などを創造活動の場として活用するとともに、アーティスト・クリエイターなど創造的な人材の一層の集積と企業・地域との協働を推進し、創造性を生かしたまちづくりを進めます。

### (1) 横浜芸術アクション事業

拡充

4億5,432万円（前年度：6,000万円）

p. 30

市民参加・次世代育成・賑わいづくりを柱として横浜らしいダンスフェスティバル「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」を開催します。東京2020オリンピック・パラリンピックの文化プログラムも視野に入れながら、事業展開を図ります。

<Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018 概要>

開催期間：30年8月4日～9月30日（コア期間58日間）

プレ期間：30年5月1日～8月3日

ポスト期間：30年10月1日～11月30日

会場：市内全域（横浜の「街」そのものが舞台）

ジャンル：コンテンポラリー、ストリート、ソシアル、チア、日本舞踊、バレエ、フラ・ポリネシアン、盆踊りなどオールジャンル

ディレクター：ドミニク・エルヴェ、近藤 良平

主催：横浜アーツフェスティバル実行委員会



#### ア 市民参加及び横浜の街を舞台とした事業

##### 【主な事業】

##### ・横浜ダンスパラダイス

（PRステージ・フィナーレスペシャルプログラム）【Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015  
「横浜ダンスパレード」撮影:bozzo】

実施日：30年8月～9月（PRステージ）

30年9月30日（フィナーレスペシャルプログラム）

場所：市内各地の商業施設や公園等（PRステージ）

都心臨海部の商業施設や公園等（フィナーレスペシャルプログラム）

内容：フェスティバル期間中の週末に市内各地で、公募の市民ダンサーが出演する「PRステージ」を開催します。また、フェスティバル最終日には「フィナーレスペシャルプログラム」として、市民ダンサーが都心臨海部に集結し、オリジナルダンスを観覧者を含めた参加者全員で踊るなど、盛大にフィナーレを飾り、フェスティバルを締めくくります。

## ・18区連携事業

実施日：5月～11月

場 所：市内各所

内 容：各区の文化施設が実施する事業や区民まつりとも連携し、全区でダンス事業を実施します。

## イ トップアーティスト事業

### 【主な事業】

#### ・日仏共同制作『トリプルビル』

実施日：30年9月上旬

場 所：横浜赤レンガ倉庫1号館

内 容：日仏交流160周年にちなんだ、フランス人の振付家が公募の日本人ダンサーに振り付けを行うHIPHOP作品です。

横浜で世界初演後、フランス各地で公演を予定しています。

#### ・横浜ベイサイドステージ

実施日：30年8月4日～8月12日

場 所：象の鼻パーク

内 容：横浜ならではの景観を生かした  
野外舞台で繰り広げられる、  
幻想的な舞台公演等を実施します。



【Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015  
「横浜ベイサイドパレエ」  
撮影：Kiyonori Hasegawa】

## ウ 子どもたちの豊かな創造性を育むための次世代育成事業

### 【主な事業】

#### ・18区キッズダンスワークショップ

実施日：30年7月～8月

場 所：各区の文化施設等

内 容：ダンス初心者の子どもたち向けに  
プロダンサーによるワークショップ  
を開催します。



【Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015  
「ダンス部応援プロジェクト」 撮影：bozzo】

## (2) 日中韓都市間文化交流事業

1,326万円（前年度：1,326万円）

p. 30

「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づき、芸術団体等の派遣・招へいを通じて、中国泉州市及び韓国光州広域市との文化交流を引き続き行います。

加えて、29年度に京都で開催された東アジア文化都市サミットにおいて、日中韓3か国の歴代東アジア文化都市の代表により採択された「京都宣言」の趣旨を踏まえ、都市間の友好関係のさらなる発展に努めるとともに、アジアの文化ハブとしての横浜の魅力を国内外に発信します。



【光州広域市における横浜市芸術団の公演】



【3都市の高校生によるヨコハマトリエンナーレ見学】

## (3) スマートイルミネーション事業

4,460万円（前年度：4,460万円）

p. 26

横浜都心臨海部を舞台に、LED照明や太陽光発電などの省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の演出を試みるイベント「スマートイルミネーション横浜」を実施し、都市としての魅力の向上を図ります。

30年度は、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、海外との連携をより一層推進します。



【スマートイルミネーション横浜 2017 撮影:Ryohei Tomita】



【スマートイルミネーション横浜 2017 撮影:Hideo Mori】

#### (4) 創造的ビジネス・コーディネート事業

3,000万円（前年度：3,000万円） p.26

様々な産業とクリエイターの創造性をかけあわせた付加価値の高い商品開発・販路開拓を支援し、新たなビジネス機会の創出を図ります。

30年度は、展示会出展を継続するとともに開発した商品（クリエイターグッズ）を販売する売場を設置・運営することで、販売機会を提供します。



【アンビエンテ 2017 出展風景】

#### (5) アーツコミッション事業

6,206万円（前年度：6,206万円） p.26

アーティスト・クリエイターの集積促進と活動支援の取組として「ワンストップ相談窓口」を運営します。また、若手アーティストの育成や共生社会の実現を目指した創造活動、スタジオ・事務所等の開設に対する支援を実施し、まちの活性化を図ります。

30年度は、アーティスト・クリエイターなどの関係者が相乗効果を生み出すプラットフォームを運営することで、新たなビジネス機会や横浜らしい魅力あるクリエイティブな活動の創出を促進します。

#### (6) 創造界限形成事業

3億1,068万円（前年度：3億4,395万円） p.26

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を有効活用した創造界限拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センターや、急な坂スタジオ、象の鼻テラス、THE BAYSの運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの育成支援や地域との連携を通して、地域の活性化を図ります。

また、違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区においては、引き続き、地域・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

30年度は、都心臨海部の賑わいや活性化につなげるため、アーティスト・クリエイターのさらなる集積を促す事業や、各創造界限拠点が連携したプログラムを実施します。



【YCC ヨコハマ創造都市センター「RED ROOM #2」】



## ◆トピックス④ ヨコハマトリエンナーレ 2017 ◆

6回目となる我が国を代表する現代アートの国際展、ヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス」を開催しました。

「接続と孤立」をテーマに、私たちを取り巻く社会や人間のあり方を反映した密度の高い展示がされ、多くの方々から強い共感をいただきました。

会 期：平成 29 年 8 月 4 日から 11 月 5 日（88 日間）

会 場：横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、横浜市開港記念会館地下ほか

総来場者数：約 26 万人

また、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与することを使命としている横浜トリエンナーレは、以下の取組等を進めました。



【横浜美術館会場の様子】

### ・現代アートを分かりやすく伝える取組

市民サポーターによるガイドに加え、今回初めて、ガイドブックやスマートフォンアプリによる音声ガイドを日英 2 か国語で無料提供し、Web サイトも多言語（日英を含む 9 言語）で用意しました。

また、すべての作品で写真撮影を可能とする等、親しみやすい取組を進めました。



【視覚障害者のためのガイドツアーの様子】

### ・誰もが鑑賞しやすい取組

会場間無料バスをノンステップバスで運行、障害のある方等にむけたワークショップの開催やチラシの作成など、障害の有無にかかわらずアートに触れるきっかけを作る取組を進めました。

【視覚障害者のためのガイドツアーの様子】

### ・次世代育成の取組

子ども向け鑑賞ポケットガイドを市内全小中学校等の児童・生徒へ配付したほか、事前ガイダンス付きの学校団体鑑賞プログラムやワークショップ等を行いました。

### ・市民サポーターとの協働

分かりやすい日英での作品ガイド活動や来場者への周辺情報等の案内、アーティストの運営サポートなど、各種活動をしていただきました。



【サポーターによる事前ガイドを受ける子どもたち】

### ・創造界限拠点等との連携

BankART1929 及び黄金町エリアマネジメントセンターの事業とのセット券を販売し、会場間無料バスを運行したほか、パラトリエンナーレをはじめ、創造界限拠点等のプログラムと連携しました。また、応援プログラムとして、公募により集まった、市内で開催される様々なイベント・企画との広報連携を実施しました。

国内外からの交流人口の増加による市内経済活性化を図るため、ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催機会をとらえた訪日観戦客の滞在・観光促進、アジア地域やクルーズ旅客など、市場に即した誘客に取り組みます。

また、すべての方々が安心して快適に旅行を楽しめるよう、多様な来訪者に対応できる受入環境整備を進めます。

さらに、新たなMICE施設の整備とともに、経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議に加え、IoTやライフイノベーションなど成長分野の会議をメインターゲットとしつつ、インセンティブ旅行や展示会などの誘致も展開し、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

### (1) ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とする海外誘客プロモーション事業

新規

1,900万円（前年度：－）

p. 31

ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機として、観光地としての魅力を訴えることで訪日観戦客の横浜での滞在・観光を促進します。

ラグビーワールドカップ2019™では、7試合が横浜で開催されることから、観戦客の市内宿泊を促すため、個人旅行者向けの宿泊予約サイト等を活用した誘客プロモーション等を実施します。

また、大会期間中の市内観光を促進するため、モデルコース造成や現地旅行会社へのセールス等を実施します。



【英国の旅行会社との商談会】

【ラグビーワールドカップ2015™  
日本代表 対 サモア代表】

## (2) 海外誘客事業

拡充

7,552万円（前年度：7,351万円）

p. 31

アジア地域を対象に、各市場に即した誘客事業を実施します。

個人旅行者や訪日リピーターの増加、体験指向など、訪日旅行ニーズの変化に合わせ、SNSを活用した誘客プロモーションを行うほか、他都市と連携した広域周遊ルートの販売促進や、ツアーを造成する旅行会社に対するセールスを行います。

横浜港のクルーズ船発着数の増加を踏まえて、クルーズ船の乗船前の市内宿泊、横浜観光を促進するためのセールスを実施します。

また、市内に来訪する外国人旅行者の実態やニーズを把握・分析するための調査を実施し、誘客施策に反映します。



【タイで開催されたジャパン・トラベルフェア】



【クルーズ船社の横浜視察受入】

## (3) 国内誘客事業

拡充

4,313万円（前年度：4,108万円）

p. 31

修学旅行など団体旅行を誘致するため、旅行会社などに対して、セールスを実施するとともに、個人旅行者に対して来訪を訴求するため、SNSを活用して、魅力ある観光資源を発信します。

また、横浜が有する様々な資源や強みを新たな観光資源として掘り起し、横浜ならではのニューツーリズム（着地型観光）を推進します。多くの映画やドラマの舞台地となっていることから、これらを活用し、誘客、回遊性の向上に取り組みます。

ユニバーサルツーリズムの取組では、新横浜エリアの観光施設等のバリアフリー対応状況の調査を行うとともに、市内観光関連事業者を対象とした研修を開催します。



【旅行会社と市内観光関連事業者との商談会】



#### (4) MICE誘致・開催支援事業

拡充

2億965万円（前年度：1億9,373万円）

p. 32

誘致・開催支援など各種施策を推進することで、MICE開催機能を強化し、横浜の特色を生かした国際的なMICE拠点都市を目指します。

##### 【主な事業】

##### ア MICE誘致・開催支援

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議に加え、IoTやライフイノベーションなど成長分野の会議や、インセンティブ旅行や展示会などの誘致及び開催支援を行います。

大型国際会議の横浜開催に向け、海外商談会への出展など国内外のセールス活動や誘致助成金の交付などを行います。

また、会議開催におけるサステナビリティの取組への支援や、横浜で開催される国際会議等の経済波及効果を測定し、MICEの受入環境整備を推進します。

##### イ MICE次世代育成事業

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒を対象とした講演やワークショップなどの講座を開催します。研究者との交流や、普段体験できない特別な実習などを通し、次世代を担う児童・生徒が最先端の技術や情報に接し、また、将来の進路について考えるきっかけを提供します。

##### ウ MICE・観光集客等イベント支援

横浜の歴史や景観を生かした大規模集客イベントに対し、広報協力など開催に向けた支援を実施するとともに、MICEの誘致及び観光・集客支援を推進します。



【第18回世界肺癌学会議の様子  
撮影：Jon Benjamin Photography】

#### (5) 20街区MICE施設整備事業

1,000万円（前年度：1,300万円）

p. 32

MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要を踏まえ、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）で、新たなMICE施設（PFI事業）とホテル等（民間収益事業）を一体的に整備します。29年8月に建築本体工事に着手し、32年4月の施設開業に向けて、着実に工事を進めます。

##### <施設概要>

階数	地下1階、地上6階
最高の高さ	36.2m
延床面積	約47,000㎡
多目的ホール	約7,600㎡ (ホワイエを含め約10,000㎡)
会議室	約6,500㎡ (大会議室8室、中会議室8室、小会議室18室)



【20街区MICE施設のイメージ図】

## ◆トピックス⑤ 国際的なMICE拠点都市・横浜◆

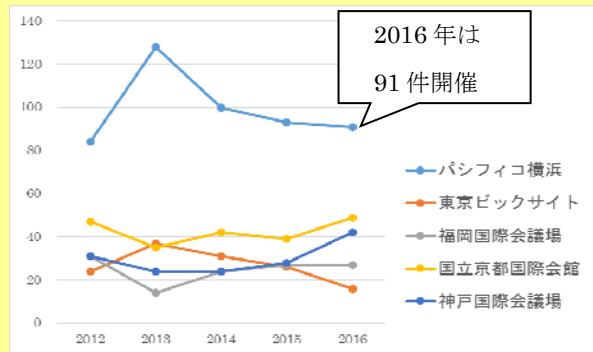
日本有数のMICE施設であるパシフィコ横浜では、国際会議をはじめ数多くのMICEが開催されています。今後も、2020年の新施設の開業を契機とし、さらなる賑わいを創出していきます。

### ◆会場別国際会議参加者総数

#### 15期連続全国1位

パシフィコ横浜は、JNTO（日本政府観光局）国際会議統計の会場別国際会議参加者総数が約28万人で15期連続全国1位、開催件数については91件で14期連続全国1位となりました。

【会場別国際会議開催件数】

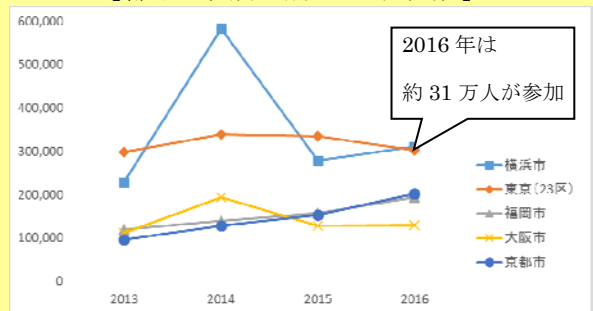


### ◆都市別国際会議参加者総数全国1位

都市別国際会議参加者総数は約31万人で全国1位となりました。

今後も、経済波及効果の高い中大型国際会議等の誘致を積極的に推進していきます。

【都市別国際会議参加者総数】



出典：JNTO（日本政府観光局）国際会議統計

## ◆トピックス⑥ 多様な来訪者に対応できる受入環境整備◆

ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人旅行者や障害のある方など、多様な来訪者が快適に滞在できる受入環境整備に取り組んでいます。

引き続き、ムスリム旅行者やベジタリアンに対応した受入環境整備と情報発信を行います。

また、スポーツ観戦客向け観光情報の発信など観光情報公式サイトの一層の拡充、市内事業者向けの外国人旅行者接客研修の開催など、多言語対応強化を進めます。

さらに、観光関連施設のバリアフリー情報の調査や発信など、年齢や障害の有無等に関わらず、横浜観光を楽しめるよう、ユニバーサルツーリズムを推進します。



【(株)イーオンと連携した英語セミナー】



【インドネシアで開催されたトラベルフェア】

## ◆トピックス⑦ ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機とした取組の強化◆

文化観光局では、世界的なスポーツイベントである両大会を絶好の機会として、横浜らしい文化芸術による発信や国内外からの誘客の強化、新たなMICE拠点の整備などにより、賑わいの創出や経済の活性化など都市の活力を創出し、「選ばれる都市 横浜」の実現を目指しています。両大会を見据えた 30 年度の主な事業を御紹介します。

### ◆ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機とする海外誘客プロモーション事業

大会期間中は、英国などラグビー伝統国からの訪日が見込まれています。横浜市では国や関東圏の開催都市（神奈川県・横浜市/埼玉県・熊谷市/東京都）と連携した誘客プロモーションやセールスを実施し、観戦客の宿泊・観光促進につなげていきます。



【英国ラグビー関係メディア受入】

### ◆パーソナルモビリティツアー実証実験事業

横浜の新たな魅力・観光資源として、都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの公道実証実験を行います。30 年度は、公募型一般向けツアーの実施に向けた環境整備を行います。



【臨海部での公道実証実験の様子】

### ◆ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017【再掲】

P. 9 参照

### <参考：国の文化プログラムについて>

オリンピック開催国の責務として「文化プログラム」を開催することとされており、大会組織委員会及び国の関係府省庁が連携して次の取組を行っています。横浜市もこれらの取組に積極的に参画し、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの気運醸成に貢献していきます。

### ◇東京 2020 参画プログラム「文化オリンピアド」(オリパラ組織委員会：28 年 10 月～)

「オリンピック憲章」に基づき、スポーツ・文化等 8 分野からなる公式プログラムの 1 つで、横浜市は会場関連自治体として「公認プログラム」の対象団体となっています。

- ・採択事業 映像文化都市づくり推進事業、芸術文化教育プログラム推進事業など

### ◇beyond2020 プログラム (内閣官房：29 年 1 月～)

2020 年以降のレガシー創出に資する全国で実施される文化イベント等が対象です。

- ・採択事業 ヨコハマトリエンナーレ 2017、ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 など

### Ⅲ 平成30年度 文化観光局予算案総括表

(単位：千円)

科 目	30年度 予算額	29年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款 文化観光費	10,514,053	7,319,770	3,194,283	43.6	
1項 文化観光費	10,514,053	7,319,770	3,194,283	43.6	
1目 文化観光総務費	1,335,146	1,365,221	△ 30,075	△ 2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費 △ 24,289千円</li> <li>・ 調査分析事業 △ 2,132千円</li> <li>・ シティプロモーション事業 △ 2,000千円</li> </ul>
2目 文化芸術創造都市推進費	7,603,768	4,221,037	3,382,731	80.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関内ホール改修事業 2,342,155千円増</li> <li>・ 文化施設整備事業 715,200千円増</li> <li>・ 映像文化都市づくり推進事業 499,684千円増</li> <li>・ 文化施設運営事業 △ 218,038千円</li> </ul>
3目 文化プログラム推進費	540,574	532,223	8,351	1.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横浜芸術アクション事業 394,320千円増</li> <li>・ 横浜トリエンナーレ事業 △ 386,500千円</li> </ul>
4目 観光MICE費 振興	1,034,565	1,201,289	△ 166,724	△ 13.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光施設維持管理事業 48,821千円増</li> <li>・ ラグビーワールドカップ2019™、 東京2020オリンピック・パラリン ピックを契機とする海外誘客プロ モーション事業 19,000千円増</li> <li>・ アジア開発銀行年次総会横浜開催 推進事業 △ 235,000千円</li> </ul>





## IV 予算科目別内訳

1 項 1 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市 債	その他	一般財源
1 文 化 観 光 総 務 費	千円 1,335,146	千円 1,365,221	千円 Δ30,075	千円 —	千円 —	千円 55	千円 1,335,091

### 横浜魅力づくり室

#### (1) シティプロモーション事業 **85,824千円** (前年度 87,824千円)

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的にプロモーションすべきイベント・施設を選定したうえで、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。30年度は、アジアに加え英国やオーストラリア等をターゲットエリアに、海外への訴求をより強化します。テレビやWebメディアとSNSによるプロモーションを展開することで、都市の魅力の認知やブランド力の向上につなげます。

#### (2) 調査分析事業 **12,076千円** (前年度 14,208千円)

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等を把握することにより、施策立案の基礎情報として活用します。あわせて、国内外での横浜の魅力に関する調査を実施し、賑わい形成、経済の活性化、プロモーションを戦略的・効果的に実施することにつなげます。

#### (3) フィルムコミッション事業 **11,579千円** (前年度 12,860千円)

横浜のシティセールス・プロモーション等に寄与する映像作品や観光客誘致に効果のある映像作品のロケ支援を行います。

#### (4) 開港記念式典開催事業 **4,680千円** (前年度 4,680千円)

開港記念日（6月2日）に市民の皆様や市政関係者とともに開港を祝い、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表するため、開港記念式典を開催します。

#### (5) パーソナルモビリティツアー実証実験事業 **5,000千円** (前年度 5,000千円)

横浜の新たな魅力・観光資源として、都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの公道実証実験を行います。

### 総務部

#### (6) 総務費 **16,048千円** (前年度 16,421千円)

文化観光局職員の人材育成事業などを実施します。

#### (7) 人件費 **1,199,939千円** (前年度 1,224,228千円)

文化観光局職員の人件費を計上します。

1項2目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
2 文化芸術創造都市推進費	千円 7,603,768	千円 4,221,037	千円 3,382,731	千円 139,322	千円 2,679,000	千円 5,630,475	千円 △845,029

### 文化芸術創造都市推進部

#### (1) 創造界限形成事業 310,676千円 (前年度 343,949千円)

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を有効活用した創造界限拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）や、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）の運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの育成支援や地域との連携を通して、地域の活性化を図ります。

また、違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区においては、引き続き、地元・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

さらに、都心臨海部の賑わいや活性化につなげるため、アーティスト・クリエイターのさらなる集積を促す事業や、各創造界限拠点が連携したプログラムを実施します。

#### (2) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 10,000千円 (前年度 60,000千円)

障害のある方をはじめとする市民の皆様と、アーティストなどの多様な分野のプロフェッショナルとの協働によるアートプロジェクト「ヨコハマ・パラトリエンナーレ」のPR活動と次回展（2020年予定）に向けた開催準備を行います。

#### (3) アーツコミッション事業 62,060千円 (前年度 62,060千円)

アーティスト・クリエイターの集積促進と活動支援の取組として「ワンストップ相談窓口」を運営します。また、若手アーティストの育成や共生社会の実現を目指した創造活動、スタジオ・事務所等の開設に対する支援を実施し、まちの活性化を図ります。

さらに、アーティスト・クリエイターなどの関係者が相乗効果を生み出すプラットフォームを運営することで、新たなビジネス機会や横浜らしい魅力あるクリエイティブな活動の創出を促進します。

#### (4) スマートイルミネーション事業 44,600千円 (前年度 44,600千円)

横浜都心臨海部を舞台に、LED照明や太陽光発電などの省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の演出を試みるイベント「スマートイルミネーション横浜」を実施し、都市としての魅力アップを図ります。

#### (5) 創造的ビジネス・コーディネート事業 30,000千円 (前年度 30,000千円)

様々な産業とクリエイターの創造性をかけ合わせた付加価値の高い商品開発・販路開拓を支援し、新たなビジネス機会の創出を図ります。また、開発した商品（クリエイターグッズ）を販売する売場を新たに設置・運営することで販売機会を提供します。

**(6) 映像文化都市づくり推進事業** **528,634千円** (前年度 28,950千円)

横浜市が誘致した東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用しながら、地域貢献・次世代育成の取組を実施します。また、同大学院が校舎として使用する映像文化施設の維持管理を行うとともに、旧富士銀行横浜支店映像文化施設が立地する土地について、一般会計による所管換えを行います。

さらに、民間企業と連携して「ハンドメイド・アニメーション・グランプリ横浜賞」を設け、次世代の若手映像クリエイターを支援します。

**(7) 創造都市市民連携事業** **6,666千円** (前年度 6,666千円)

約300名の市民ボランティアスタッフが運営に参加する「横濱JAZZ PROMENADE」や、日本大通りを中心に多地点で同時に開催するコンサート「ホッチポッチ・ミュージックフェスティバル」など、多くの市民の皆様が参加するイベントの開催を引き続き支援するとともに、まちの賑わいや来街者の回遊性を創出します。

**(8) 創造都市国際交流事業** **1,000千円** (前年度 1,000千円)

創造都市の取組を推進する地方自治体間の連携・交流を図る「創造都市ネットワーク日本(CCNJ)」と連携し、創造都市に関する情報・知見を共有する都市間ネットワークを形成するとともに、今まで培った国際ネットワークを活用した交流を図ります。

**(9) 創造都市推進事業** **5,548千円** (前年度 6,092千円)

文化芸術創造都市施策推進のための事務経費等

**(10) 芸術文化教育プログラム推進事業** **34,940千円** (前年度 34,940千円)

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを30年度は、261回(29予算261回)実施します。

**(11) 地域文化サポート事業** **30,000千円** (前年度 30,000千円)

地域課題の解決にアプローチするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける取組や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくりなどの分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌(季刊「ヨコハマアートサイト」)の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。

**(12) クラシック・ヨコハマ推進事業** **10,000千円** (前年度 10,000千円)

国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催や、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家への演奏機会の提供及び市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシックコンサートを実施します。

また、コンクールでは、市民の皆様を選定員になっていただき、聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。

**(13) ミュージック・マスターズ・コース・** **20,000千円** (前年度 10,000千円)  
**ジャパン推進事業**

次世代を担う演奏家の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、横浜みなとみらいホールで合宿セミナーを実施します。成果を発表する場として、室内楽やオーケストラ等のコンサートを開催します。30年度は、プログラムの追加や広報の充実を通して事業を一層推進します。

**(14) 芸術文化支援事業** **30,400千円** (前年度 30,400千円)

市民の皆様が様々な文化芸術活動を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市内に拠点のある文化芸術団体が行う、横浜の文化振興の基盤を担う活動を支援します。神奈川フィルハーモニー管弦楽団のコンサートや、市庁舎や市内各地で演奏会を開いている横浜市民広間演奏会、市内最大の美術公募展などの活動を支援します。

**(15) フランス映画祭支援事業** **30,000千円** (前年度ー)

日仏交流160周年を機に、フランス映画祭が横浜で開催されます。街の賑わいづくり及び横浜市とフランスの友好関係を強固なものとするを目的に、「横浜フランス月間」と連携しながら、この映画祭の開催を支援します。最新作上映のほか、市民交流・次世代育成事業を実施します。

**(16) 文化施設運営事業** **2,964,689千円** (前年度 3,182,727千円)

横浜美術館、横浜みなとみらいホール等の文化施設の運営及び各施設の設備機器の計画的な修繕・更新等を行うほか、30年度は、横浜みなとみらいホールの大規模改修に向けた基本設計を行います。

○ 横浜美術館運営費	759,971千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	486,521千円
○ 横浜能楽堂運営費	173,000千円
○ 横浜にぎわい座運営費	209,704千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	993,198千円
○ 横浜みなとみらいホール大規模改修 基本設計	50,000千円
○ 文化施設修繕費等	292,295千円

**(17) 関内ホール改修事業** **2,600,266千円** (前年度 258,111千円)

しゅん工後30年が経過し、老朽化が進んでいるため、電気、空調、衛生設備等を更新することにより、長寿命化を図るとともに、利用者の安全を確保するためにホールの天井脱落対策を併せて行います。30年度は引き続き工事を進め、9月下旬の完成を予定しています。

**(18) 横浜美術館大規模改修事業** **70,000千円** (前年度ー)

しゅん工後約30年が経過し、老朽化が進んでいるため、美術作品を展示、保存する上で重要である空調設備をはじめとする、電気や衛生設備等を更新することにより、長寿命化を図るとともに、バリアフリー対応や収蔵庫の拡張等を行います。30年度は改修工事に向けた基本設計を行います。

**(19) 文化施設整備事業** **757,200千円** (前年度 42,000千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、身近な拠点となる区民文化センターを、各区の地域特性等に応じて整備します。30年度は、瀬谷区で保留床の一部を購入し、港北区で内装の実施設計を行うとともに、都筑区で活用事業者の公募を行います。

○ 区民文化センター整備

瀬谷区	(保留床購入費)	148,000千円
港北区	(内装実施設計費)	51,200千円
都筑区	(土地有償所管換費、活用事業者公募費)	558,000千円

**(20) その他の文化振興事業** **47,527千円** (前年度 29,980千円)

横浜文化賞の贈呈、美術資料収集等のほか、文化施設が設置されている複合施設の修繕費を負担します。

**(21) 芸術文化振興財団補助金** **9,562千円** (前年度 9,562千円)

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団の事業への補助を行います。

1項3目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
3 文化プログラム推進費	千円 540,574	千円 532,223	千円 8,351	千円 160,000	千円 —	千円 10,000	千円 370,574

## 文化プログラム推進部

### (1) 横浜芸術アクション事業 454,320千円 (前年度 60,000千円)

都市の文化プレゼンスを高めていくことを目的に、文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムを国内外に発信するため、横浜らしい特色のある芸術フェスティバル「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」を開催します。

また、継続事業として、次世代育成事業・市民参加事業を実施します。

ア Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018

(ア) 市民参加及び横浜の街を舞台とした事業

- ・横浜ダンスパラダイス(市内各地で市民ダンサーが出演するステージを展開)

(イ) トップアーティスト事業

- ・横浜ベイサイドステージ
- ・日仏共同制作作品
- ・海外招へい作品

(ウ) 子ども達の豊かな創造性を育むための次世代育成事業

- ・18区キッズダンスワークショップ(各区の文化施設等で開催)
- ・スクール・オブ・ダンス(アーティストを学校に派遣)

イ 音楽部門

「横浜音祭り2016」で高まった機運を継続させるため、横浜みなとみらいホールでの次世代育成事業や、神奈川フィルハーモニー管弦楽団によるヨコハマ・ポップス・オーケストラを実施します。また、次期音楽フェスティバルの開催に向け、準備を進めます。

### (2) 横浜トリエンナーレ事業 66,000千円 (前年度 452,500千円)

我が国を代表する現代アートの国際展である「横浜トリエンナーレ」の第7回展開催(2020年予定)に向けて、会場やディレクター等の調整のほか、市民の皆様や地域と協働したまちの盛り上がりの創出のための準備を着実に進めます。

### (3) 日中韓都市間文化交流事業 13,263千円 (前年度 13,263千円)

「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づく中国泉州市及び韓国光州広域市とのアーティストや芸術団体の派遣・招へい等、引き続き文化芸術を通じた交流を行っていきます。

### (4) 文化プログラム推進事業 6,991千円 (前年度 6,460千円)

ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、横浜らしい特色のある芸術フェスティバルを中核的取組としながら、横浜ならではの文化プログラムを展開することにより、まちに賑わいを創出するとともに、文化芸術創造都市・横浜の魅力を国内外に発信します。

4	1項4目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
					国・県	市債	その他	一般財源
	観光MICE振興費	千円 1,034,565	千円 1,201,289	千円 △166,724	千円 —	千円 —	千円 877,117	千円 157,448

### 観光MICE振興部

#### 1 国内外からの誘客促進

198,578千円

(前年度 167,381千円)

横浜ならではの観光資源の磨き上げと修学旅行など団体旅行の誘致、ユニバーサルツーリズムの推進に取り組みます。また、アジアを対象に各市場に即した誘客事業やクルーズ旅客の横浜滞在・観光を促進します。さらに、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした誘客に取り組みます。

併せて、多様な文化圏から来訪する外国人旅行者が不便を感じることがないように、引き続き受入環境を整備し、東南アジア諸国からの誘客を推進します。

また、マーケティング機能を強化して、公民一体となって戦略的に事業を推進していきます。

##### (1) 国内誘客事業

43,133千円

(前年度 41,083千円)

- 国内向けセールス・プロモーション
- ニューツーリズム（着地型観光）の推進
- ユニバーサルツーリズムの推進

##### (2) 海外誘客事業

75,515千円

(前年度 73,508千円)

- メディア・旅行会社等を対象とするセールス
- クルーズ旅客の横浜滞在・観光促進
- 外国人観光客実態調査

##### (3) ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とする海外誘客プロモーション事業

19,000千円

(前年度—)

- 宿泊予約サイト等を活用したプロモーション
- 訪日観戦客の宿泊・観光促進のためのセールス

##### (4) 多文化に対応した受入・誘客事業

9,000千円

(前年度 9,000千円)

- 東南アジア諸国からの誘客
- 多様な生活様式を持つ来訪者の受入環境整備

##### (5) 観光・MICE情報発信事業

51,930千円

(前年度 43,790千円)

- WebサイトやSNSを活用した観光・MICEの最新情報の発信
- 観光MICEマーケティング事業

## 2 観光客の受入環境整備の推進

407,102千円

(前年度 382,058千円)

観光案内所の運営や国内外からの観光客の受入環境の向上に取り組むほか、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、引き続き多言語対応を強化します。また、三溪園など観光施設整備の支援を行います。

### (1) 横浜おもてなし事業

55,100千円

(前年度 54,651千円)

- 観光案内所の運営などによる来訪者支援
- 国内外からの観光客の受入環境向上及び研修の開催等による市内事業者支援

### (2) 多言語対応強化事業

6,500千円

(前年度 6,500千円)

- 横浜観光情報公式サイトの多言語対応強化
- 訪日外国人旅行者の情報提供拠点の機能拡充

### (3) 三溪園施設整備等支援事業

229,059千円

(前年度 254,429千円)

- 名勝庭園の維持、重要文化財等の歴史的建造物整備・保全の支援

### (4) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業

2,763千円

(前年度 3,251千円)

- 認定商品の商談会等の開催や販路拡大の支援

### (5) 観光施設維持管理事業等

113,680千円

(前年度 63,227千円)

- 所管観光施設の管理運営支援
- 横浜マリンタワー改修にかかる基本設計及び実施設計
- 観光動向に関する調査

## 3 M I C E 誘致・開催支援

418,885千円

(前年度 403,850千円)

中大型国際会議を軸としたM I C E 全般の誘致・開催支援や、集客イベントへの開催支援に継続して取り組みます。

### (1) M I C E 誘致・開催支援事業

209,648千円

(前年度 193,728千円)

- M I C E 誘致・開催支援
- M I C E 次世代育成事業
- M I C E ・観光集客等イベント支援 等

### (2) 大型国際会議等誘致・支援事業

4,300千円

(前年度 5,185千円)

政府系大型国際会議の豊富な開催実績を生かし、引き続き誘致・開催支援を行います。

### (3) 減債基金積立金

204,937千円

(前年度 204,937千円)

㈱横浜国際平和会議場貸付金の元金償還額及び利子償還額を減債基金に積み立てます。

## 4 20街区M I C E 施設整備事業

10,000千円

(前年度 13,000千円)

M I C E の市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）で、P F I 事業により新たなM I C E 施設の建築本体工事を進めます。

### 【終了事業】

(アジア開発銀行年次総会横浜開催推進事業)

(前年度 235,000千円)



## ・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を変更。

（30年度変更後額：7,585,000千円（29年度設定額：7,785,000千円））

（変更後の期間：30年4月～40年3月まで）

### 1 団体の概要

#### <事業目的>

国際・国内会議及び学術会議等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

#### <設 立>

昭和62年6月3日

#### <基 本 金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

### 2 団体の経営状況：平成28年度決算

・営業収益 8,274,436千円 ・営業費用 6,982,538千円

・営業利益 1,291,898千円 ・当期純利益 380,222千円（15期連続黒字決算）

### 3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

### 4 対象債務の返済の見通しとその確実性

15期連続で黒字決算を達成している。今後も、売上の増加を図り、40年4月までに、対象債務を返済する見通しである。

DANCE  
DANCE  
DANCE  
*at* YOKOHAMA